

2026年度「早石修記念海外留学助成」に選出された方々(敬称略)(応募総数71名)

第10回早石修記念海外留学助成審査結果について

本年は、国内枠24件、海外枠47件の計71件の応募がありました。選考は昨年と同様に2段階審査を採用し、第1次審査を通過した国内枠および海外枠の上位者を対象に第2次審査を行いました。公平性を期すため、第2次審査においては、すべての申請課題を同一の6名の審査員が評価しました。2025年10月17日に開催された審査委員会において、厳正な合議の結果、以下の課題を採択することと決定しました。なお、当初は国内3名、海外2名の計5名を採択する予定でしたが、過去の留学生の途中帰国による返還金等が発生したため、結果として国内3名、海外3名の計6名を採択することとなりました。

早石修記念海外留学助成は今回で最終となります。これまでご支援いただきました小野薬品工業株式会社に深く感謝申し上げます。

海外留学審査委員会委員長 水島 昇

助成総額: 48,000,000円

| 採択者氏名 | 所属機関 | 研究課題 |
|---------------------|---|--|
| いたくら たくみ 板倉 拓海 | California Institute of Technology | 恐怖と安心のダイナミクスを制御する神経・分子基盤 |
| カワセ コウヤ 川瀬 恒哉 | 名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野 | 早産によるニューロン新生低下が引き起こす脳機能障害の病態解明 |
| キタムラ ダイキ 北村 大樹 | 大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 | 最新トランスラトーム解析技術Ribo-ITPを用いた卵子老化メカニズムの解明 |
| ナナマツ アズマ 七松 東 | インディアナ大学医学部腎臓高血圧内科 | ウロモジュリンの翻訳後修飾異常に着目した慢性腎臓病の病態解明 |
| ハヤシ マキコ 林 真貴子 | Ragon Institute of MGH, MIT and Harvard | 免疫原性細胞死誘導による膀胱がんの免疫応答再活性化メカニズムの解明 |
| ユキ リュウサブロウ 幸 龍三郎 | 京都薬科大学薬学部生化学分野 | リン酸化コードを計測・操作可能な人工タンパク質の設計による抗がん剤耐性機構の解明 |

所属は応募時(2025年7月26日)現在で表示